

令和6年11月 教育委員会定例会議事録

1. 日 時	令和6年11月28日 (木)	午後2時30分 開会
		午後3時50分 閉会
2. 件 名	河南町教育委員会定例会	
3. 開催場所	河南町役場 庁舎4階 大会議室南	
4. 出席委員	<p>教育長 中川 修 教育長職務代理者 西川 幹雄 委員 藤原 充 委員 高井 美恵子 委員 杉田 みはる</p>	
5. 事務局職員	<p>教・育部長 谷 道広 教・育部理事兼指導主事 内山 裕生 教育課長 藤井 康裕 こども1ばん課長 山田 恵 生涯まなぶ課長 森 弘樹 給食センター所長 浅井 明郎</p>	

(審議内容)

教育長	<p>令和6年11月の教育委員会定例会を開催いたします。</p> <p>それでは、まず初めに、本日の定例会につきまして、5名の方より傍聴の申し出がありました。つきましては河南町教育委員会会議規則の規定により、許可いたしましたのでご報告いたします。</p> <p>次に本日の出席者は5名です。定足数を満たしておりますことをご報告いたします。</p> <p>次に会議録署名委員は、河南町教育委員会会議規則第17条の規定により、西川委員に決定してよろしいでしょうか。</p>
委員全員	異議なし
教育長	<p>ご異議ないようですので、会議録署名委員は西川委員に決定いたしました。</p> <p>それでは本日は、議案がありませんので第2諸報告その他について進めさせていただきます。</p> <p>まず「(1)令和7年度4月入園申込数と在園児数見込について」事務局の説明お願いします。</p>

事務局	「(1)令和7年度4月入園申込数と在園児数見込について」資料に基づき説明
教育長	<p>この件について何かご質問はありますか。よろしいですか。</p> <p>次に順番が前後しますが、「(2)令和6年度中学校チャレンジテスト（3年生）調査結果について」の前に、「(3)その他」に進めさせていただきます。</p> <p>何か事務局からありますか。</p>
事務局	「河南町人権映画会子ども映画会」について、資料に基づき説明。
教育長	この件はよろしいですか。
事務局	「学力向上に関する取組」について、資料に基づき説明。
教育長	<p>11月5日に、河南町の子ども達に身に付けてほしい力ということで、話をすることをかいつまんで、今ここで紹介させていただきます。</p> <p>7月の夏期教職員研修で、まず、KANAN ビームについて、河南町教育大綱の「一人ひとりが輝き、笑顔あふれる人づくり」というゴールに向かって、こども園、小学校、中学校でやっていること、みんなが同じ方向を向いてやっているということ、一つになりたいという話をしました。</p> <p>その拠り所がこの KANAN ビームであり、ビームの B はベスト、E はエンパワーメント、A はアクション、M はメイクアップで、潜在的に持っている力をまだまだ発揮できていない子ども達もたくさんいるので、我々教育者は、それをいかにして最大限引き出してあげるかが一番のポイントであるということなどを、先生だけではなくて、こども支援スタッフさんなど、子ども達に関わっていただいている方々に話をさせていただきました。</p> <p>今回は、特に学力向上に特化して、この KANAN ビームとの関係性で非認知能力というものにスポットを当ててみました。内容としては、非認知能力とは一体何か、7月に話した KANAN ビームと認知能力・非認知能力のつながり、非認知能力を育成するにはどうすればいいのかといったことを話しました。</p> <p>生きる力とは、確かな学力と豊かな心とたくましい健康、この三つをバランスよく合わせたものである。その中で確かな学力というのは一体何なのか。資料にある知識技能という数値化されやすい、テストの点数に出てくるような見やすい部分だけではない。例えば、その子はどんなふうに考え、何をもとに判断したのか。どんな表現を頭の中で考えているのかというのは、なかなか見えにくいが、それも学力です。</p>

もっと見えないものもあります。学びに向かう力や人間性というのは、なかなか表面化しない見えない学力です。でも、それも含めて文部科学省では、学習指導要領の中でも確かな学力はこの3つと言っています。

先生たちは、この上の部分だけにスポットを当てているなら違いますよ。この下のところも大事ですよ。分け方は研究者によって違いはありますけど、一般的に言われる、この見える学力と言われている部分が認知能力で、見えにくい学力と言われている部分が非認知能力です。見える学力という、その認知能力は何なのかというと、ペーパーとかで数値化されやすいようなもの。例えば、代表的な物は、IQの数値とか、或いは、中間テストや期末テストの点数であるということ。

でも、それだけではなくて、この思考力・判断力・表現力は何か言うと、例えば、粘り強さとか、最後まで諦めないと、或いは誰かと協力しながらやるとか、主体的にするとか、積極的にやってみようという力です。それを今一度、皆さんで注目して育成していこうということを呼びかけました。

非認知能力と言うと聞き慣れない言葉ですけど、今後もっとみんなが共有しやすい言葉に置き換えていきたいと考えています。

要は、数値化される学力だけではなくて、今言ったような、粘り強さとか諦めない気持ちとか、コミュニケーションとか、人の気持ちがわかるとかは、実は改めて今から育成するのではなくて、もう今までから先生たちは十分やっているのだということ。

それは、何かと言うと、こども園も含めて学校には教育計画というものがあります。その中で学力、数値化できる部分について、「朝学に取り組みます。授業はこんなふうに頑張っていきます。」と書いてある。それはそれで大事ですが、それ以外の部分、例えば、生徒指導であるとか、生活指導であるとか、給食のあり方、掃除の仕方など、計画の分厚い冊子の大半は、認知能力ではなくて、非認知能力を育成するための活動についても書いています。

そういうことを改めて先生たちに伝えて、忙しいとは思うけれど、教育計画をもう一度見てもらい、今聞いた非認知能力の育成には何をしなければいけないのか、今までやってきていると改めて意識し、そこで頑張った力を、例えば、勉強するときに結び付けていくこと、意識的に子ども達に言っていくことが大事であり、それを一人の先生だけがやるのでなく、河南町で子どもに関わって働く人たちが、みんなでやっていこうという話をさせていただきました。

KANAN ビームの関わり方では、Bの部分ならこう関わりますとか、Aの部分ならこういうふうに関わりますよということをやりました。非認知能力は、ど

うすればいいのか。何も新しいことをしなくていい。今まで自分達がやっていることを再確認し、既存の取り組みをベースにして、そこに少し加味してやつていくことで、子ども達を育成していこう。一人ひとりが輝く、笑顔あふれる人づくりをやっていこうとすることが、学力調査の結果や、或いはいじめ、不登校といった問題についても、よりよくしていくことに繋がっていく。そう信じてみんなでやっていこうということを話しました。その時に聞いてもらった先生たちの感想も読んでください。

さきほど各校の取り組みが発表されたのですが、非認知能力的なことも十分意識しながら取り組みをやってくれています。それは嬉しいということとともに、今回を機にもっとそれを意識していこうということを伝えました。

各校の取り組みはどうなのか、中学校の授業を見てどうなのか、教育長の話を聞いてどうだったのかなど、それぞれが感想を書いてくれています。

総じて肯定的にとらえてくれていますし、みんなでやっていこうということも伝わったようですし、意識をしていくと思っている人が、予想以上にたくさんいたので、やってよかったですと思っています。

それに向けて、令和7年、令和8年とまだまだ続いていくので、具体的にどうしていくのか、その検証はどうなのかということを見ていかないといけないと思っています。

委員

今年、中川教育長から KANAN ビームの提案があって、定例会でも何度か話し合いをし、いい方向だなあということで確認をしたところです。

特に今回、この非認知能力について言及されているのをお聞きし、見えない学力をどう子ども達に培っていくかという観点は、とても有効であると感じました。

学校では先生方は、単に、勉強を教えるだけではなく、いろんなことを子ども達に向けて指導しておられます。例えば、友達関係とか、或いは、仲間とともに活動するには何が大事なのかとか、いろいろな面で指導されていることが、実はこの非認知能力に関わることだと思いました。

教育長とお話をし、非認知能力を育てる一番良い時期が、幼児期から学童期にかけてだと勉強させていただきました。特に集団活動を通して、子ども達を伸ばすのが最適であり、周りの子ども達の関わりの中で、友達に支えられたり、或いは励まされたりしながら、その場でいろんな力を身につけていくと思います。簡単に言えば、教育活動の中で、子ども達がいい格好ができるように、先生方が工夫されて、そのことによって子どもが自信を持ち、またそのことによって、周りから認められて、自分はできるとか、こんなことは頑張ったらで

きるのだという力を身につけさせることが、非認知能力に繋がるのではないかと思います。

一人ひとりが輝き、笑顔あふれるという部分ですけども、やはり子ども達が元気に毎日活動することが、学校にとって一番大事なことだと思っています。

例えば、運動会であれば、自分がリレーの選手になった時、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんなど、保護者や周りの大人達に見てもらって、友達に頑張ったねと言われたり、先生から応援してもらったりすると、その子にとって一番の思い出になり、支えになると思います。だから、すべての子ども達が何らかの形で活躍できる場面をしっかり設定することが、先ほど教育長がお話された非認知能力を育てるのに一番の近道と思います。

非認知能力には、たくさんの項目があります。例えば、やり抜く力、自分を信じる力、自己肯定感とか、或いは意欲面では、自分の内なる意欲を高めていこうとする力、或いは学習に向かう力、それから忍耐力、粘り強く最後まで取り組むという力、それから、自制心といったものを育んでいく。或いはメタ認知とか、特に学校で大事だと思うのは社会的能力で、リーダーシップの育成。リーダー的な力を、すべての子ども達が何らかの形で持てるならば、すばらしいなと思います。その他対応力とか、或いは一番大事な創造力の部分とか、いろんな部分がたくさん含まれているのが、実は非認知能力であると僕はとらえています。それぞれの学校教育の中で、先生方が子ども達一人ひとりをどのように生かしていくかということを考えていただけたら、そこに繋がっていけるのではないかと思いました。

学校では、いろんな集団活動をしておられ、今日もかなん桜小学校で生活科の授業を見せていただきました。その中で、1年生と2年生の子が上手に関わり合う形での授業構成をしておられました。そういう関わりの中で子ども達が育っていくので、この非認知能力の育成は、少しずつでもいいので、今後も伸ばしていただけたらと思います。

教育長

これは、こども園でも意識してやってくれています。かなん桜小学校も近づき飛鳥小学校も、1年生から6年生までの縦割り集団や縦割り班活動で取り組んでいます。

中学校でいうと、生徒会とか、体育大会の応援の時に1年生から3年生までが協力するとか、そこでの上下の異年齢の交流であるとかです。

驚いたのが、こども園に行ったときに、3歳から5歳の子たちが、各グループで異年齢交流をしていると、園長先生が言っていました。意識的に園が結びついている。そういうことをしておくことが、これから先、小学校や中学校に

	<p>いっても繋がるのではないかということも両園長先生が言っていたので、そういう意味ではこども園でも小学校でも中学校でも大事にしている。</p> <p>そして、やってみて楽しい、何が楽しかったのかということを意識づけていくことで、各教科の取り組みにも反映できることがあるのかなと思います。</p>
委員	<p>今の発言を受けて、私も思うところがあります。</p> <p>今私たちが生きている世界というのは、ソサエティ 4.0 という世界なのです。ソサエティ 4.0 というのは、いわゆる情報が最大の武器で、その証拠として、フェイスブックとかグーグルとかアマゾンは、世界の巨大な情報をもとにして商売をしています。巨万の富を得て、フェイスブックなどはスイスの国家予算を上回るぐらいの利益をあげているそうです。</p> <p>次のソサエティ 5.0 は、近未来の世界で、人工知能・AI が幅を利かせて、我々人間の仕事の分野までどんどん取っていく。そうすると、子ども達が世の中に出てきたときに、仕事を選べる範囲が狭まっていく。そのときに、非認知能力というのは、私が考えるに、感情であり、感性であり、心の問題で、来るべきソサエティ 5.0 の社会になった時に、AI にはできない分野。AI が苦手な部分は何かというと、まさしくこの非認知能力の部分です。ゼロから物事を作り出す。それから、集団の中でいろんな意見をまとめ上げる力。人の気持ちを読み取る力。これはAI にはないのです。だからこのAI にはない部分を、まさしく今日協議されている非認知能力の中で、感情、感性、メンタル、マインドを強める。この非認知能力を育てるためには、幼児期が大切だということに大賛成で、何が素晴らしい能力かというと、石川こども園、中村こども園を視察させていただき、幼児は、夢中になれる能力を持っている。これが、子ども達の最大の能力です。</p> <p>一生懸命夢中になれる能力、夢中になつたら、どういうことが起こるかというと、先生にもお母さんにもお父さんにも、どうしてどうしてと聞いてきます。それは、自分にとってすごくプラスの情報であり、ワクワクして楽しいから夢中になる。この幼児期のワクワクする気持ち、これを磨けば、一生学んでいきたいという気持ちが自分の脳細胞に残ってきます。そういう意味で、私は幼児教育にすごく関心があります。</p> <p>これからのお子さん達というのは、ソサエティ 5.0 の社会の中で勝ち抜いていくためには、この言葉、非認知能力という言葉が出ていますが、表現力、発信力、行動力、主体性、積極性、ゼロから物を作り出す力、創造力。これを一言で言うと、人間力だと思います。</p> <p>この人間力を高めることで、これからAI が大いに活用される社会でも、子</p>

	ども達が活躍できるようになるのではないかと思います。
	EQ、IQという言葉があります。いわゆるEQというのは、遺伝子的なものではありません。簡単に言うとEQというのは、人の気持ちを読み解く力です。それをトレーニングする方法がいっぱいあります。そういうことも、今後この河南町の教育委員会でいろいろ論議しながら、子ども達の人間力を高めていく、早い時期から高めていくということを、皆さんとともに頑張っていきたいと思います。
委員	自分の経験として、子ども達に豊かな人権感覚、例えば、障がい者との関わり等を勉強するときに、一番大事な時期が幼児期から小学校の低学年、中学年です。例えば、支援を要する子どもさんと一緒に勉強してきた子は、障がい者教育をしなくとも、もう共に一緒にやってきて、先生以上に学んでいるところがいっぱいある。
	この非認知能力も、幼児期もしくは、学童期が一番適しているという、教育長の話もありました。大事にしていくと、すばらしい子ども達になっていく。特に低学年のときに、人との関わり、人に対する優しさとか、人を大事にするとはどういうことなのかというようなことがしっかりと入っていけば、盛んに言われているいじめ問題の解決にも繋がっていくのではないかという気はします。今回こういう提案をしていただいたので、そこを大事にこれから進めていくのがいいかなと思います。
委員	素晴らしい非認知能力を伸ばすような学校生活を送っていってもらったらいいと思うのですが、この思考力、判断力、表現力や学びに向かう力っていうのは、今、子ども達は評価されているはずですが、数値化されているのでしょうか。
	見えにくいけれども、先生達が国語や算数の評価するときには、これを加味して、授業評価をしていると思うので、それを見るような授業をしていくこと、学びに向かう力や人間性が見てとれるような授業をしていくことといった授業の工夫がない限り、いつまでたっても見えないままになってしまっている。そのあたりについては、指導要領が変わってから何年も経っているのだから、ある程度きちんと評価していく、それができるような子ども達を育っていくというのを、授業ではお願いしたいと思いました。
教育長	人間性というものは数値化が難しいかもしれないが、読み取る力、思考力、判断力、表現力については、何とか数値化しようとしていろんな工夫をしたり、

	<p>振り返りのアンケートをしたり、いろんな部分で、先生達が努力して工夫してくれている。それはもう十分実績があるので、今まで通りやってもらいたいという話をさせてもらって、その中で、今言っているのは、全部含めての学力ということは十分わかっているという先生達も当然いると思います。しかし、まだまだ経験年数の浅い先生達が、今回の私の話を機会に、先輩方にもう一回、教育長は何を言っていたのかと聞いてもいい。その中で、このような話をしていく機会ができれば一番いいなと思っている。委員がおっしゃるよう、やはりその具現化は授業だと思います。</p> <p>どう授業を工夫していくかということが、やはり大事かなと思います。今後、お気づきの点があつたらお話できればと思います。</p> <p>はい。他よろしいでしょうか。</p> <p>他にはないようですので、「(2)令和6年度中学校チャレンジテスト（3年生）調査結果について」に進みます。これにつきましては、公開が予定されていない情報が含まれますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第十四条第7項の規定に基づきまして、これより非公開にしたいと思います。</p> <p>お諮りします。「(2)令和6年度中学校チャレンジテスト（3年生）調査結果について」、非公開で行うことに賛成の方の挙手をお願いいたします。</p>
委員	―― 全員挙手 ――
教育長	挙手全員と認めますので、これによりまして「(2)令和6年度中学校チャレンジテスト（3年生）調査結果について」は、非公開とすることに決しました。会場の閉鎖をお願いいたします。
	―― 会場封鎖 ――
	会場の封鎖を確認しました。
	※※※※※※※ 以下 非公開 ※※※※※※※
教育長	はい。他にございませんか。特にないようですので以上をもちまして本日の議事日程はすべて議了いたしました。これをもちまして11月の教育委員会定例会を閉会といたします。
	次回開催日は、令和6年12月25日10時からと決めさせていただいております。1月定例会は、令和7年1月29日10時から、大会議室南で開催いたします。本日はご苦労様でした。ありがとうございます。

令和　　年　　月　　日

教育長名

署名委員名